「マーケットの浅読み・深読み」
発行・編集：FXニュースレター　　執筆担当：斎藤登美夫
▼▲▼
◇◆◇　No.0773　◇◆◇　　24/01/24

【 ドル/円、短期底打ち経て再びドル高基調入りか!? 】

先週もレポートしたように、今年一年の相場見通しを「ドル安・円高」と予想しているアナリストなどが多いとみられるなか、周知のようにドル/円の実勢相場は年明け以降まったく逆の値動きだ。実際、今年だけですでに 8 円以上もドル高が進行している。
もちろん、2024 年相場はまだ始まったばかり。1 ヵ月も経たないうちに結論付けるのはいかがなものかという気もするが、気になる要因もなくはない。そのひとつは、当レターで過去に何度もレポートしている「ドル安サイクル」の観点。詳細は後述するが、ヒョッとするとドルは再び上昇軌道に入った可能性もある。

◎昨年 12 月末安値 140.26 円、短期波動でみたドルボトムの可能性

ドル/円における 3 つの「ドル安サイクル」については、過去の当レターでも何度かレポートしている。
ちなみに、前回は昨年 10 月 25 日付け。その際には「足もとのドル高基調、すでに終盤の可能性も」――と報じていた。興味のある方は、ぜひ詳細はバックナンバーを是非とも当たって欲しいが、ともかく前回レポートした際のサイクルなどを下記でいま一度掲載しておく（赤字は今回修正を加えた部分、11-15 年のデータは割愛）。

長期波動（66 ヵ月）	中期波動（20-25 ヵ月）	短期波動（10-15 ヵ月）
・16/06/24　98.65（56 ヵ月）	・16/06/24　98.65（10 ヵ月）	・16/06/24　98.65（10 ヵ月）
↓	↓	・17/09/08　107.33（13 ヵ月）
	・18/03/26　104.57（20 ヵ月）	・18/03/26　104.57（ 7 ヵ月）
	↓	・19/01/03　104.10（10 ヵ月）
・20/03/09　101.19（45 ヵ月）	・20/03/09　101.19（24 ヵ月）	・20/03/09　101.19（14 ヵ月）
↓		・21/01/06　102.60（10 ヵ月）
	↓	・21/08/04　108.72（ 7 ヵ月）
	・23/01/16　127.22(34 ヵ月)	・23/01/16　127.22（17 ヵ月）
	↓	・23/12/28　140.26(12 ヵ月)（未確定）
・2025 年ごろ		

前述した昨年 10 月の前回レポートから進展し、今回新たに取り沙汰されているのは 10-15 ヵ月周期で訪れる「短期波動」のボトムが、昨年 12 月末すでに達成している可能性についてだ。
と言うのも、改めて指摘するまでもなく、前記のとおり前回高値を起点に 12 ヵ月で底入りという日柄的にはドンピシャとなっているうえ、価格的にも 12 月底値 140.26 円から、直近高値 1 月 19 日の 148.80 円まで、1 ヵ月も経たないうちに 8 円を超える上昇をたどっている――ことによる。何度も繰り返すが短期波動は基本的に 10-15 ヵ月周期。したがってサイクルを延長しなくても最大では今年の 3-4 月、今春にボトムを付ける可能性もまったくないではない。しかし、価格そして日柄両面からみても、その公算は極めて低いと言ってよいのではと思っている。

では仮に、昨年 12 月末の 140.26 円が短期サイクルボトムだった場合、今後の展開は果たしてどうなるのだろう。
残念ながら、もっとも関心が高いと思われるドル上値メドについては、今回の「ドル安サイクル」で予想することは出来ず、正直「わからない」と言うしかない。しかし経験則からすると、底入れ後のドル高進行期間は下落期間の半分程度、つまり 5-7 ヵ月程度要することは少なくないようだ。とするなら、ドル高の最終到達レベルは不明ではあるものの今年 5-7 月、つまりは今夏ぐらいまで足もとのようなドル高・円安傾向が続く可能性もある。

なお、日経新聞は、今年 1 月 1 日に起こった能登半島地震を受け、日銀による 1 月金融修正観測はなくなった（注；実際に昨 22 日、日銀は「修正の見送り」を発表）と指摘する反面、3 月修正観測を依然として「前のめり」に報じているが、果たして如何に。普通に考えれば、日米金利差縮小となるならドル安・円高への進行が予想されるだけに、前段までに筆者の指摘した「ドル安サイクル」を参考にした見通しと矛盾

fx-newsletter

することになりそうだが･･･。（了）

▼▲
当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。
なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

◆◇◆ Copyright （C） fx-newsletter limited company All Rights Reserved ◆◇◆

FX-newsletter